

平成 30 年度 事業報告

就労継続支援 B 型

1 開所について

開所日数 240 日 (昨年 258 日)

月度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
日数	20	21	21	21	20	18	22
月度	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
日数	20	19	18	19	20		

平均利用者数 14.1 人 (昨年度 15.9 人)

- 様々な事由により、利用日数が昨年に比べて減少した。
 - ・ 特別開所が計画通り開所できなかった。
開所が利用者の要望と合わず、参加希望が減少。計画しても中止になるケースが増加。「土日はゆっくり休みたい。」という声が多かった。
 - ・ 週 2～3 日限定での通所利用者に対して、毎日通えるように働きかけたが、利用が増えていかなかった。
 - ・ 精神的な不安定や交通事故など突発的な理由により入院、2 名が長期欠席となった。
 - ・ 精神的に課題がある利用者への支援が難しく、関係機関と連携、対応検討を重ねたが通所の継続に繋がらなかった。

2 利用者について

定員 20 名 現員 19 名 (工房 14 名 喫茶 5 名)

- 6 月から在籍数が徐々に減り 12 月までには 3 名が退所した。
2 月度に、2 名の新規利用者が増え、在籍が 19 名までに戻った。
通所を継続するには、当事業所だけでは、対応が困難なケースが増え、関係機関との連携協力による支援の重要性を再認識した。

各月の状況

- (4 月) 生活介護から移行、活動場所を喫茶から工房へ移動 (1 名増)
- (6 月) 交通事故により長期入院,その後退所 (1 名減)
- (7 月) 就労継続支援 A 型へ移行により退所 (1 名減)
- (9 月) 精神的な不安定が続き、長期入院、その後退所 (1 名減)

(10月) 活動中の1名が、急な精神的不調により、通所困難になる。

その後も家庭、医療機関と連携、支援を続けている。(継続)

(2月) 新規利用者2名通所を開始(2名増)

3 作業について

作業工賃 工賃総額 3,195,327 円 (29 年度工賃総額 2,920,331 円)

月一人当たり平均工賃 13,892 円 (29 年度平均工賃 13,334 円)

工房

- 下請作業の受注に関しては、繁忙期、閑散期無く受注が安定した。
 - ・ 新規企業2社より新たな下請け委託を受ける。
 - ・ 作業量・作業種が増えたことで、資材や製品も増え保管場所が不足した。

- 除草作業を本格的に実施する。実績 24 件 600,520 円
夏場は、猛暑により連続して作業することが難しかった。
剪定など細かな作業を必要とする大規模施設などは、対応できず
断念したケースも数件あった。
職員、利用者ともに、体力の消耗も激しく、厳しい作業であることを感じた。

- 規模を縮小して、エコプラザ(ヒバリヤ様店頭)を継続したが、回収量、持ち込み客の減少に歯止めがかからず、ヒバリヤ様と検討、本年度にて終了するに至った。(資源回収は、生活介護事業で継続する。)

喫茶

売上 5,432,245 円 (30 年度 5,984,650 円 29 年度 6,164,920 円)

- 環境やお客様のニーズの変化など、複合的な要因で、売上が減少傾向にある。
 - ・ イベントなどは、昨年の実績を参考に、取組み内容を改善することで、売上アップに繋がった。(ほほえみ祭り、ふれあい広場)
 - ・ 施設外作業として、ヒバリヤ店頭にて資源回収を積極的におこなう。
 - ・ 出張販売を継続して行った。サンドイッチ、総菜、おでんなどを市役所、分校で販売した。近隣の住民の方々も訪ね、売上アップに努めた。
 - ・ 地域の方々、会館を利用される方々が、気軽に立ち寄って頂けるように、様々な工夫を続けている。

4 就労支援について

工房

- 苦手な作業、初めて行う作業などに、繰り返し取り組み、一人ひとりが自信を持ってできる作業が増えてきている。その為、生産量も増加、緊急や複雑な作業も受注できるようになってきている。
 - ・ 屋内では、箱折り、シール貼り、抹茶等の計量袋入れ作業にて、一定時間集中して行える力を養えるよう進めた。
 - ・ 屋外では、納品作業、除草作業、資源回収にて、地域の人たちや関係者などと積極的に利用者がコミュニケーションを取った。
 - ・ 施設外作業として、ヒバリヤ店頭にて資源回収を積極的に行い、地域の方々と直接コミュニケーションをとれる機会を多く取り入れた。
- 市役所、支援学校にて、サンドイッチ、総菜、おでんなどを出張販売

喫茶

- 店舗営業活動を通して、営業に必要な支援や一般就労に必要な知識・能力・技術の習得に対する支援を行った。また、出張販売、イベント等に積極的に取り組んだ。(ほほえみ祭り、ふれあい広場)
 - ・ 一人ひとりの強みを活かせるように作業種、配置を行った。
 - ・ 集客を増やす工夫を利用者、スタッフで話し合い、取り組んでいる。
 - ・ 新メニューの開発・研究を、利用者を中心に進めている。

5 健康管理について

- 静岡県助成事業による年1回の歯科検診を実施。また、感染症対策として日々の手洗い、換気の励行、温度・湿度の管理に努めた。
 - ・ 夏季には、熱中症の予防のため、活動中の適度な休憩、水分補給を利用者に促した。(除草作業、資源回収など、屋外での活動時は特に注意した。)
 - ・ 冬季には、インフルエンザ等の感染症も昨年と比べると大きな広がりはなかった。

平成 30 年度 事業報告

生活介護

1 開所について

開所日数 256 日 (昨年 254 日)

月度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
日数	20	22	22	22	22	21	23
月度	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
日数	22	22	18	20	22		

特別開所

- ・職員の細かな配慮、支援により、個別での対応ができ、安定した利用に繋がっている。開所時の活動内容は、余暇支援、運動支援から、通常の日課による活動へシフトしている。

平均利用者数 8.9 人 (昨年度 8.9 人)

- 通常時も安定的な利用が継続されている。特別開所に於いても利用人数は安定している。

2 利用者について

定員 10 名 現員 11 名

- 包括的な支援の必要なケースが増え、関係機関との調整、連携が重要になってきた。
- ・ 排泄や身体整容の介助が必要な場面が増え、衛生面の支援も重要になってきている。
- ・ 昨年様々な理由で、安定した通所が困難であった利用者 2 名がヘルパーと家庭との連携により継続して通所できた。
- ・ 急な保護者の入院等に伴い、通所が困難な状況になったが、個別の送迎や生活の支援を関係機関と連携して行うことで通所を継続できた。

各月の状況

(4 月) 就労継続支援 B 型へ 1 名移行

(9 月) 長期利用が困難であった利用者が 1 名 利用を再開した。

(12 月) 保護者の入院により、生活全般の支援が必要になり、通所にも個別の対応を要した。

(1 月) 保護者の死亡により、身寄りが無くなり生活全般の支援が必要になったが関係機関との連携により通所を続けている。

3 生産活動について

○ 作業工賃

工賃総額 529,717 円 (29 年度工賃総額 579,202 円)

月一人当たり平均工賃 4,312 円 (29 年度平均工賃 4,387 円)

- ・ 作業状況を考えると、これ以上の工賃アップは難しいが、利用者の工賃への期待にはできる限り応えていきたい。
工賃を維持する事で、生産活動以外の支援に支障がでないよう進めていく。
- ・ 屋内では、鯉節パックの検品袋詰め、保健所、健診用検査キットなどの作業。
屋外では、生産した製品、資材の搬出搬入作業を行った。これらの活動を通して「自ら出来る事」をサポートした。

4 生活支援について

○ 利用者一人ひとりの意向に沿って、日課を作り活動した。

- ・ 音楽教室による音楽療法、ヨガ教室による運動を、ボランティア講師を依頼、心身の健康維持を図った。
- ・ 各種行事などを通じて社会生活体験、地域の機会を提供した。

5 健康管理について

○ 嘱託医師による月 1 回の健康相談、静岡県助成事業による年 1 回の歯科検診を継続した。

○ 定期的健康診断を案内にて促し、希望により協力医院に付き添い行った。

また、感染症対策として日々の手洗い、換気の励行、温度・湿度の管理に努めた。

○ 夏季には、熱中症対策として、屋内での活動中も適度な休憩、水分補給を促した。屋外での活動時（散歩、外出）には、利用者の状態に合わせて外出を控えることや外出する場合の暑さ対策を徹底した。

○ 1 月に入り、インフルエンザ A 型が急激に広がり、2 名を除き全員が感染した。予防接種を受けた方は、症状が出にくかったが、同様に感染した。症状が改善回復されてからの感染はなかった。

対策として、毎日、朝・昼と検温や体調の確認をおこない、外出後の手洗い、うがいを徹底し体調が変化し症状が出ていれば、家族に受診をお願いした。

平成 30 年度 事業報告

多機能型（全体）

1 開所について

- 事業間で、開所日数に差が出ているが、これは土曜日の開所の実施状況によるもので、今後は事業ごとに対応を検討計画していく。
就労継続支援 B 型については、工賃の向上や仕事の受注状況に合わせて特別開所の内容を変えていく。生活介護は、現在の状態を維持していけるように進める。

2 利用者について

- 特別支援学校の実習生や各相談支援事業所からの見学、体験、実習を積極的に受け入れることで、その後の利用に繋がっている。
- 工房では、2月にトイレの改修を、一部助成金で行い実施。以前より衛生環境は大きく改善された
- 事業に関わらず、活動スペースが不足している。
 - ・ 工房では、作業資材が増え、さらにトイレ改修で収納部分が縮小、それらにより活動部分が狭まり繁忙期には不便を掛けている。
 - ・ 喫茶は構造上、収納部分が少なく備品資材などの保管が困難、その為、工房で備品等を保管せざるを得ない状況がある。
 - ・ 生活介護では、作業を活動の中心に措くことで、資材等により、想定以上に利用者の活動スペースが不足している。
- 利用者の抱えている課題や困難に対しての支援や対応についても、関係機関や保護者との連携だけでは解決できないケースも出ている。
- 高齢化や核家族で地域に頼れる環境にない利用者に於いて、緊急時の迅速、確実な対応が求められるケースが増えている。
 - ・ 地域生活を支援する体制が整っていない為、将来的な不安が高まっている。

3 職員研修について

- 事業ごとによる職員会議・連絡会を毎月度行った。
- 全体での連絡会を定期的実施することができず、話合いや情報共有が滞ってしまった。
- 計画的な外部研修参加で専門知識、技術の取得を図ったが、研修等で得た知識や情報を、職員全体で共有することができなかった。

研修・会議実施状況

月度

月 度	研 修・会 議	内 容
4 月	工賃向上会議・自主製品検討会議	職業指導員、生活支援員
7 月	相談支援従事者研修（静岡県）	成岡 史織（生活支援員）
8 月	職員研修（長期計画、現状課題検討）	職業指導員、生活支援員
	個別支援計画研修（オール静岡）	曾根 佳代（生活支援員）
	施設職員研修（静岡県作業所連合会）	田中 久恵（生活支援員）
9 月	施設長研修（静岡県作業所連合会）	押尾 浩二（管理者）
10 月	「地域共生社会への挑戦」地域包括シンポジウム サービス管理責任者研修	松野雅己 （サービス管理責任者） 成岡史織（生活支援員）
2 月	職場適応援助者養成研修・前半 （訪問型ジョブコーチ）	山本衛（職業指導員）
3 月	職場適応援助者養成研修・後半 （訪問型ジョブコーチ）	山本衛（職業指導員）

4 防災について

- 防災・避難訓練／防災設備点検を定期的実施
 - ・各事業の状況に合わせて定期的に訓練を行った。
 - ・設備点検を年 2 回 業者に依頼、実施した。
 - ・防災の日、合同防災訓練（就労継続支援 B 型、生活介護）を行った。
 - ・非常食、賞味期限切れの為、新たに一部購入、備蓄した。経費面や保管場所等の理由で、不足分は本人用として手元に置くことを前提に各自で用意して頂くお願いをした。

5年間行事について

行事実施状況

(月度)

月 度	行 事 内 容	場 所
5月	健康づくり・ウォーキング	蓮華寺池公園まで歩こう
6月	日帰りバス旅行	ヤクルト工場見学（就労）
		富士山世界遺産センター アサヒ飲料富士山工場（生活）
7月	七夕まつり見学	焼津昭和通り（生活）
8月	夏期休暇・ほほえみまつり	大井川福祉センター、ほほえみ
9月	合同防災訓練	防災の日
10月	ふれあい広場	総合福祉会館
11月	ふれあいレクリエーション	このはな アリーナ
12月	クリスマス会	共同募金助成金事業
1月	新成人を祝う会、新年顔合わせ	総合福祉会館

- ・全体での行事に於いては、移動や内容により困難な状況が多くなっている。
- ・常活動時の作業に追われ、特定の行事を継続することしかできない。

令和元年 事業方針

工房・喫茶（就労継続支援B型）

<工房>

ここ2、3年の実績から、長峰製茶、イケガヤ等々、受注先の会社との信頼関係も高まり、常時仕事をいただけるようになってきました。また除草作業の取り組みも本格的に軌道し始めてきています。この勢いをスタッフのさらなる意欲へと繋げ、皆で協力し合いながら進めていきたいと考えています。

*仕事場では、落ち着いた雰囲気の中で、スタッフ一同仕事に取り組めるようになってきました。一人一人が個性（得意なことや潜在能力）をより発揮することで、さらに『やりがい感』の持てる仕事へとつなげていきたいと考えます。

*昨年度前半までは、納品を生活介護の方々をお願いすることが多かったですが、後半からは、B型スタッフだけで納品まで行うようにしました。本年度もこの形を継続していくことで、仕事への責任感や成就感が高まっていくことに期待します。

*除草作業の仕事については、社会のニーズはさらに上向きになるでしょう。ただ、それに見合うスタッフの知識・スキルはまだまだ追いついていません。道具を使った効率的なやり方、作業範囲、タイムスケジュール等を明確にすることや作業完了の達成感を味わう工夫など、実践を通して少しずつ積み重ねていきたいと思えます。また、工房での仕事とのバランスをとりながら、多忙になり過ぎないように、無理のない受注量に努めていきます。

*自主製品については、従来のコーヒー販売に加え、抹茶ラテの販売も試行していきます。出張販売や喫茶での試飲会、行事での販売等を行いながら、その販路を探り、広げていきたいと考えています。

<喫茶>

喫茶では、地域の方々が、どなたでも気軽に立ち寄れる・集いあえるコミュニティカフェへの取り組みを、より一層進めていきたいと考えています。来店されるお客様への感謝はもちろんのこと、我々スタッフとお客様が、ともに地域で生活する仲間であることを大切にしながら、仕事へのやりがいや楽しさを高めていきたいと考えます。この取り組みが、地域とつながり、共有できる貴重な場として、今後も根付き、広がっていくことを望みます。

*接客、配達、ランチづくりの補助等を中心に取り組んでいますが、厨房でのごはんやみそ汁付け、ホールでのレジ打ち、その他ケーキ作りやおでんの仕込み等々取り組む内容が確実に広がってきています。今後も基本的なスキルの向上と並行しながら、さらに活動内容を広げ、やりがい感を高めていきます。また、すてきな個性を十分に発揮しながらの接客や配達での活躍に期待します。

*客層は、デイサービス利用の児童生徒さん、保育園児さん、小中学生、サポートルームの親子連れさんなど、年々広がってきています。本年度は、なるとの串あげの販売を復活させる他、かき氷の販売では、希望のあるお客様に、自身で自由に氷を作っていただく（午後の余裕のある時間帯に小中学生対象）などを試みていきます。また、店内環境として、楽しんでいただける本やおもちゃを増やす、飼育の充実、獲れた野菜のワゴン販売なども実施していきます。こうした取り組みの中で『どなたでも気軽に立ち寄れる喫茶』を推進していきます。

*『持ちつ持たれつ』の気持ちを大切にしていきます。

私たちは、周りのいろいろな方々に助けをいただきながら喫茶を運営しています。私たちができることは、「おいしくて安いものを、たくさんのお客様に味わっていただく」「ゆっくりとくつろいでいただける時間を提供する」「心のこもった笑顔の接客でお客様に喜んでいただく」です。この精神でお店を運営していきます。e t c・・・近隣で野菜を作っている方々に多くとれた野菜を提供してもらい、代わりにコーヒーチケットをお渡しし、いつでも喫茶を利用していただく・・・

こんな取り組みもしてみたいと持っています。ギフトエコノミーの考え方には程遠いですが「与えあいの地域社会」は素敵です。

*とはいえ、勢いのある時期と比べると、売り上げは徐々に落ちていきます。お客様へのアンケート調査を実施したり、メニューの工夫をスタッフ一同で話し合い、試行したりしながら、売り上げの安定や向上を、皆で目指していきます。

<工房・喫茶>

*就労支援についてですが、ハローワークやボランチからの情報を確実に皆さんに伝えていくとともに、ハローワークでの情報収集、面接会への参加も積極的に実施していきます。定期的に工房と喫茶の希望者が一緒にハローワークへ出かける機会も設けていきます。

*特別開所は、毎月第2土曜日は、開所と位置づけます。通常の仕事を実施することが多いと思いますが、時には、より良い仕事・環境作りに向けての話し合いの場としたり、スポーツ交流会やフットサル大会に向けての練習も加えたりしていきます。

就労継続支援B型
主任指導員 松野雅己

令和元年 事業計画

就労継続支援B型

1 開所について

開所日数 254 日（特別開所 12 日）

月度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
開所日数	21 日	20 日	21 日	23 日	20 日	20 日
特別開所	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
23 日	22 日	21 日	21 日	19 日	23 日	254 日
1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	12 日

2 作業について

目標工賃 15,000 円（昨年実績 13,892 円）

○ 工房

下請け作業

利用者が、ただ言われるまま作業の一旦を担うのではなく、仕事を受け、作業が完了するまでに携わっていく。作業がどのようにして社会に役立っているのかを知り、その喜びを感じていただきます。

- ・生産から納品（製品資材の搬出搬入）を通して、社会の一員としての実感に繋げていきます。
- ・各々の個性、強みを、見つける事、活かす事で意識を高めていきます。

除草作業

職員が主になって、作業を続けることはとてもたいへんなことなので利用者の皆さんが持てる力を発揮して頂かなくては、継続していくことは困難です。

- ・工夫や訓練で、皆さんの力を発揮できる場面を作っていきます。
- ・目標を決めて、役割分担を明確にしていきます。利用者一人一人の技術や体力などに応じて、役割を決めていきます。

○ 喫茶

総合福祉会館という環境を大事にして、お年寄り、お子様連れなど幅広い地域の方々へ、飲食のみならず、気軽に利用できる憩いの場となるような取り組みを進めていきます。喫茶営業を基に働く喜びを感じる事、豊かな感性を表現する活動を行っていきます。

- ・ホールでの接客、厨房での調理補助、掃除や洗濯など準備や後片付けなどを、持てる力を場面ごとに活かせるように支援、指導させていただきます。
- ・コミュニティー喫茶として、気軽に立ち寄っていただける工夫を継続して行います

○ その他

出張販売（焼津市役所アトレ庁舎、藤枝特別支援学校焼津分校）

- ・現状の販売活動を、継続します。売れ行きや事前の注文などを、参考に季節を取り入れた惣菜などを販売します。利用者には、準備から販売まで関わって頂き、自分たちで売り上げることを経験し購入されたお客様が喜んでいただける充実感を高めていきます。

○ 自主製品

- ・コーヒー、紅茶の生産、販売は継続します。静岡県総合社会福祉会館シズウェル1階「ともの店」の販売も継続します。新製品として、抹茶ラテの販売も準備していきます。喫茶を商品のアピール場所として、展開方法などを考え、自主製品の催しなども検討していきます。喫茶店舗外でも、アピールの場を求めていくよう努めます。

3 就労支援について

- 作業活動を通して、技術や知識を高めていく中で、就労への意向を喚起していきます。より良い工賃への意向がある利用者にも就労への気持ちを掘り出していきます。
- ・ジョブコーチが企業や関係機関を繋ぎ、就労先の情報などを収集、定期的に利用者とのモニタリングを行い情報提供、さらに就労先への見学、体験、実習などに繋がるよう努めて行きます。ハローワーク、ボランチ（障がい者就業・生活支援センター）との情報収集共有を積極的に活用していきます。

4 職員研修

○ 施設内研修

- ・事業所内では、各事業の目的に沿った研修や意見交換を行いより専門性を高めてきます。
- ・各事業連絡会を活用して日々の支援状況、行事等の評価反省を行います。
- ・空き時間なども活用、タイムリーな情報の共有を行っていきます。
- ・法人全体での連絡会を定期的に実施、事業の枠組みを超え視野、見識を広げていく。

○ 外部研修

- ・ 外部の研修、会議の報告は、全体で共有することで研修者の更なる理解に繋げ、積極的に報告する場を設ける。研修で得たことをその場限りにせず、職員全体への理解や活用に繋げていきます。

5 防災について

- 防災・避難訓練(月 1 回)／防災設備点検を中心に危機管理を高めていく。
- ・ 地域の防災訓練に参加します。
- ・ 訓練がマンネリ化しないよう内容を工夫していきます。
- ・ 非常食や防災用品の安全な備蓄を検討する。(防災倉庫の設置)

令和元年 事業計画

生活介護

1 開所について

開所日数 267 日 特別開所 23 日

月度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
開所日数	22 日	22 日	22 日	23 日	22 日	22 日
特別開所	2 日	3 日	2 日	1 日	3 日	3 日
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
23 日	22 日	23 日	22 日	21 日	23 日	267 日
1 日	2 日	2 日	2 日	3 日	1 日	23 日

○ 余暇活動・土曜日の日中支援

日中活動において、生産活動の他に運動、レクリエーション、季節に応じた行事などを行います。土曜日の特別開所については、年間で計画、通常の日課による開所としていきます。

また、土日などの生活介護の日中活動が提供されない日においても、必要な支援が受けられるように相談支援事業所、保護者等と検討していきます。

2 作業の進め方について

「仕事をしたい。」「工賃がほしい。」「仕事をするために通っている。」など、本人の前向きな気持ちに沿い、資源回収、軽微な下請け作業などを日課として、課題や困難への対応を支援の中心とせず、本人の強みを見つけて活かすことに努めていきます。本人の意思決定を尊重、機会も増やしていく。

○ 「できない」ではなく、色々な工夫と支援で、できることを広げていきます。

・「箱折りも真っ直ぐ折れる人はそこを活かす。」「資材の数を数えることができる人は、数を数えること」を活かす。利用者一人一人のできることを見つけ、作業に係われるように、工程を細分化して進めていきます。

・人と関わるのが好き、得意な利用者には、企業への製品や資材の搬出搬入に、同行して、本人が、従業員などの関係者に挨拶や報告をします。資源回収においては、回収先の地域の方々にも挨拶などを通して、直接、触れ合う機会を作っていきます。

- ・得意な作業づくりを進めていきます。
作業の結果は、良い部分を見つけ、認め評価します。自信を持って、仕事に向かえるような充実感や達成感を体験できる機会を作っていきます。

3 生活について

○ 週間スケジュール

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	下請作業 運動支援	下請作業 衛生管理 音楽教室	納品作業 下請作業	資源回収 下請作業	資源回収 下請作業 ヨガ教室	通常作業 資源回収 余暇支援 運動支援
午後	下請作業	下請作業	下請作業 嘱託医による健康相談	下請作業	下請作業	通常作業

○ 介護・介助

利用者の心身の状況に応じて自立支援／日常生活の充実のための介護・介助等を行います。
排泄の自立に必要な援助や、衣類やサポートグッズの交換を行います。

○ 健康管理

毎朝の健康観察・記録を継続します。
嘱託医、看護師による健康確認、相談を定期的を実施します。
感染症の拡大を、防ぐべく予防接種、健康観察を家庭と共に進めていきます。
インフルエンザ予防接種は、積極的に促し実施していきます。
利用者の健康状況に注意し協力医療機関を通じて健康保持のための適切な支援を行います。

服薬管理は、事業所の看護職員と相談の上、行います。

嘱託医師による診察・相談 氏名：竹内俊明 診療科：心療内科

診察日：第3水曜日

*利用者の病状急変等の緊急時は、速やかに医療機関への連絡等を行います。

- 衛生管理
毎日の手洗い、うがい、消毒など、積み重ねで、手順を身につけていきます。
作業前や食事前、外出先から戻った時などの手洗いや消毒の声掛け、見守り、介助を行います。
利用者の身体の状況と希望等を伺った上、できる限り自立して清潔保持が可能となるよう目指し、入浴などが困難な場合には、清拭など行うなど適切な方法で行います。
- 運動支援
運動する時間を計画的に設けて、体操、ウォーキングなど行っていきます。
様々な工夫を持って、楽しみながら行い、長く続けていけるよう進めていきます。
- ボランティア講師による体験活動
音楽教室・佐藤講師
リズム遊び、楽器演奏などを通して情緒を豊かに高めていきます。
ヨガ教室・田代講師
健康づくり、精神面の安定や前向きなやる気を引き出す効果を目指します。
- 相談及び援助
常に利用者の心身の状況や、生活環境等の的確な把握に努める。また、利用者や家族に対し、適切な相談対応、助言、援助等を行い、常に連携をはかります。家族や本人の状況や希望などを聞き取り関係機関と連携して対応します。

4 防災について

- 避難訓練(月1回)を実施、記録していきます。
利用者の障害特性、身体能力などを配慮して訓練を行う。対応を検討して
いきます。
地域の防災訓練にも参加。地域の方々に、事業を含めた理解を深めてい
だきます。

令和元年 事業計画

多機能型（全体）

1 開所について

- 開所日数
 - ・ 就労継続支援 B 型 254 日（特別開所 12 日）
 - ・ 生活介護 267 日（特別開所 23 日）
- 特別開所（土曜日）/事業別に利用者に沿った形で進めていく。
 - ・ 就労継続支援 B 型/通常作業、運動余暇支援を中心に実施する。
 - ・ 生活介護/通常日課での実施を行う。

2 利用者の状況（平成 31 年 4 月 1 日）

- 在籍状況
 - 全体 31 名 男性 14 名 女性 17 名
 - ・ 就労継続支援 B 型（男性 10 名 女性 10 名 合計 20 名）
 - ・ 生活介護（男性 4 名 女性 7 名 合計 11 名）

課題となっている利用者本人と保護者の高齢化、核家族が抱える生活全般の不安、それらの状況を把握する。将来的な生活の見通しが立たない事への対応を関係機関と連携し繋げていく体制を整える。夜間の支援、グループホーム、入所、一人暮らしなど、地域で暮らしていけるように、情報収集関係機関と共有化していく。

3 職員体制について

- 現在の人員配置を維持する。
 - 作業やその他の理由で、人員が不足する部分はボランティアなどを積極的に活用する。ボランティアは、地域の方々に事前に声掛けを行っていく。
- 人員配置
 - 昨年度の人員配置を継続していくが、体制は常に現状に沿って見直し、削減及び改善を行い効率化を図っていく。

4 職員の育成

- 計画的な各会議、研修により支援力、専門性の向上を目指す。
 - ・ 事例を通じて、対応や支援の検討を活動の中で随時行っていく。
 - ・ 計画的な外部研修参加で専門知識、技術の取得を図る。

5 施設整備（建設事業費）に備えた収益体制を目指す。

- 国庫補助金による施設新築を計画に沿って進めていく。
 - ・各事業収支を明確にして、運営基盤を作る。
 - ・各事業収益に沿った人員体制、経費運用を図る。
 - ・職員全員が、コスト意識を持てるように会計状況の共有化を継続して進める。（職員にとって、わかりやすい共有化を

6 就労支援について

- 作業活動により、技術や知識を高めていく中で、就労への意向を喚起していく。より良い工賃への意向がある利用者にも就労への気持ちを掘り出していく。

7 職員研修

- 施設内研修
 - ・事業所内では、各事業の目的に沿った研修や意見交換を行い、より専門性を高めてきます。
 - ・各事業連絡会を活用して日々の支援状況、行事等の評価反省を行います。
 - ・空き時間なども活用、タイムリーな情報の共有を行っていきます。
 - ・法人全体での連絡会を定期的に実施、事業の枠組みを超え視野、見識を広げていく。
- 外部研修
 - ・外部の研修、会議の報告は、全体で共有することで研修者の更なる理解に繋げ、積極的に報告する場を設ける。研修で得たことをその場限りせず、理解や活用に繋げていきます。

8 防災について

- 防災・避難訓練／防災設備点検、各事業、それぞれの状況に合わせて計画的に実施する。
新たに懸念される風水害も想定し、計画も随時見直していく。

令和元年 6 月 1 日

法人会員の皆さま

焼津育成の会 野いちご
管理者 押尾浩二

資源回収のお知らせ

日頃から、野いちごの運営にご理解、ご協力いただき誠に有難うございます。ヒバリヤさんのご支援で、ヒバリヤ小土店にて資源回収「わくわくエコプラザ」を実施して参りましたが、平成 31 年 3 月を持って店頭での回収を終了させていただきました。長い期間ご協力有り難うございました。

今後は、生活介護事業において、資源回収を継続して参ります。ヒバリヤ店頭での回収はありませんが、ご希望のご家庭に直接回収にお伺いさせていただきます。

つきましては、回収のご希望がございましたら、下記の通り、ご連絡いただければ日程に沿ってお伺いします。なお、ご家族がご不在でも玄関等に、出して置いていただければ回収させていただきますのでご協力お願い致します。

記

(資源回収内容)

新聞・雑誌・雑紙・アルミ缶

(注意)

ペットボトル、スチール缶、ビン、段ボールは回収できなくなりました。
*処理の際に有料になってしまいます。

ご近所などにもお声を掛けていただければ、まとめて回収させていただきます。多くの皆様のご協力をお願い致します。

野いちごに直接お持ちいただいても結構です。

連絡先(担当:曾根、田中)

野いちご第 2 工房(生活介護) 054-626-0202